

電子・物理工学科 (旧電気一部・旧応物)

電子・物理工学科の近況



工学研究科教授・電子物理工学科主任
教授

重川 直輝

卒業生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

応用物理学科と電気工学科の学科再編により平成21年4月に発足した電子・物理工学科は、発足後10年が経過し11年目を迎えることができました。皆様のご支援に深く感謝申し上げます。

本学科では、平成31年3月に37名が卒業、その内32名が本学大学院に進学、5名が就職しました。4月には49名の新入生を迎えました。大学院前期博士課程では、34名が修了、その内30名が就職、4名が後期博士課程に進学しました。

学科の体制としては、4月に梁 剣波氏がパワーエレクトロニクス分野の准教授に昇任しました。また、学科の教育研究体制強化の一環として、従来の3領域／10分野体制から、2領域（「物質機能工学」「エネルギー機能工学」）／5分野（「光機能工学」「数

理工学」「表面機能工学」「パワーエレクトロニクス」「プラズマ工学」）へと学科内部の組織整備を行いました。

研究面では、工学研究科共創教育研究機構のセンターとして、白藤教授を中心とする医工・生命工学教育研究センターと小職を中心とする機能創成科学教育研究センターがともに2年目を迎えました。

教育面では、本学と大阪府立大学による博士課程教育リーディングプログラム（平成25年度発足）に対する文科省の補助期間が終了しました。かねてよりプログラムを推進する上で工学部同窓会によるご支援を賜っておりますが、引き続きのご支援宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、卒業生の皆様の益々のご活躍をお祈りするとともに、引き続き変わらぬご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。